



2024年4月30日

各 位

会 社 名 株式会社エノモト  
代表者名 代表取締役社長 武内 延公  
(コード番号：6928 東証プライム)  
問合せ先  
役職・氏名 経営管理グループ担当執行役員  
企画管理部長 武井 勉  
電 話 0554-62-5111

## 中期経営計画策定のお知らせ

当社は、2025年3月期～2027年3月期の3ヵ年を、長期経営ビジョン「ビジョン2030」の 2nd STEPと位置付けて中期経営計画を策定し、本日開催の取締役会にて決議いたしましたので、概要をお知らせいたします。

### 記

#### 1. 計画期間

2025年3月期～2027年3月期（3ヵ年）

#### 2. 基本戦略

当社グループは、2021年度から2030年度の10年間に当社グループの事業運営の指針となる長期経営ビジョン『金型の技術で未来を創る ～より小さく より速く 最先端の技術で暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す～』を掲げております。

これは当社グループのコア技術である金型加工の更なる高みを目指すと共に、そこから派生した新規技術を組み合わせ最先端デバイスの開発と発展に常に寄与する、最も信頼されるビジネスパートナーであり続ける決意を示したものです。

#### 3. 計数目標

	2027年3月期（目標）
売上高	300億円
営業利益	24億円
営業利益率	8.0%

（注）上記の予想数値は当社が現時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

詳しくは、添付資料をご参照ください。また、さらに詳細な内容につきましては5月28日に予定されております決算説明会の開催後、当社ウェブサイト（<https://www.enomoto.co.jp/>）にて公開いたします。

以上



『ビジョン2030』  
2nd STEP  
(2025年3月期～2027年3月期)

中期経営計画(抜粋版)

2024年4月30日

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証プライム 証券コード:6928



ビジョン2030

「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で 暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

——— ありたい姿 ———

技術

- AI化と無人化による金型技術の進化で常に最先端の市場に向けて高品質な部品をスピーディーに提供し続ける

人材

- 失敗を恐れずチャレンジし多様な人財が活躍できる職場環境づくりを通じてイノベーションを生み新たな企業価値を創造する

環境

- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する
- 社会環境におけるリスクと機会を的確にとらえて行動することで信頼される企業であり続ける

# 中期経営計画『ビジョン2030 1st STEP』の業績目標の振り返り

- 1st STEPの数値目標は、津軽工場増築によるコネクタ用部品の増収や国内海外のパワー半導体メーカーへのリードフレーム販売強化から2022年5月に売上高を250億円から290億円、営業利益を20億円から24億円に上方修正
- しかしながら、2023年3月期第4四半期から続く民生用機器向けの在庫調整やエネルギー価格上昇などから、目標は未達

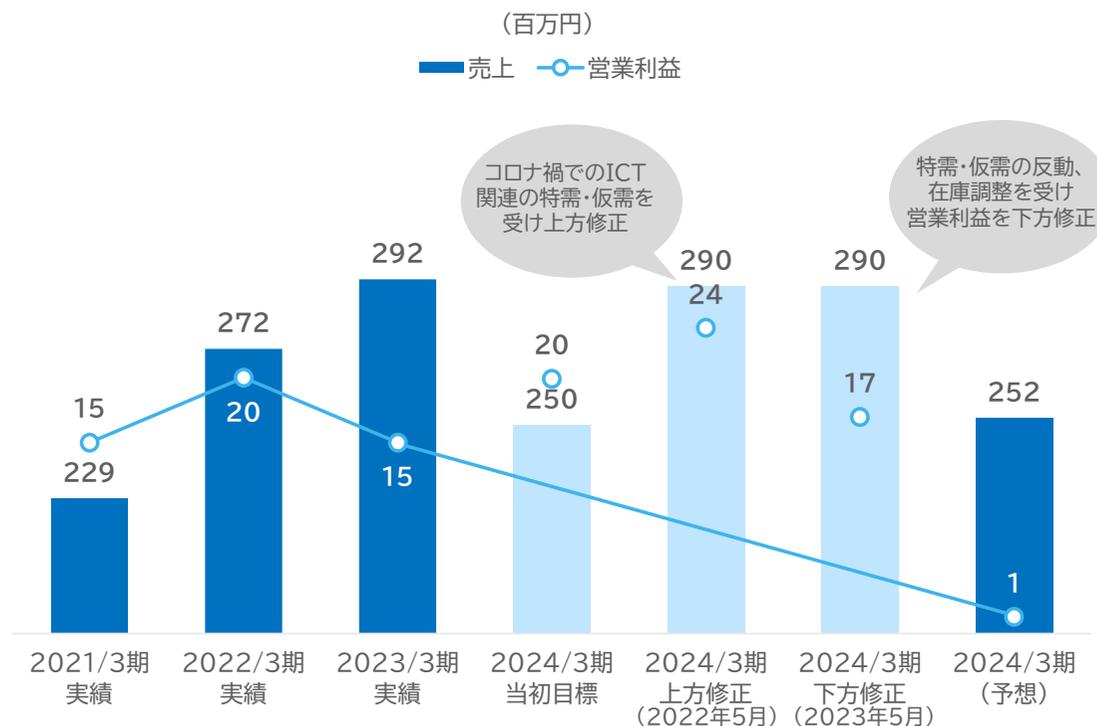
## 1st STEP 当初目標数値



## 1st STEP 実績



## 1st STEP業績推移



戦略と成果			
戦略	成果		
成長分野への投資と 収益力強化	情報通信分野向けコネクタ部品の増強(津軽工場拡張)	BtoBのシェアアップ及びウェアラブル向けの成長を見込んだが達成には至らず	×
	xEV・自動運転分野(パワー半導体・センサー)への注力	車載向けパワー半導体の需要が増加、クリップボンディングリードフレームで先行	○
	パワー半導体パッケージ部品の生産能力増強	2nd STEPで計画していた増強を1st STEPで前倒して実施、新たな顧客を獲得し物量も増加	○
	メッキ内製化による一貫生産体制強化	国内は遅れが出ているが、海外はライン数を増設し内製化に向けてサンプル評価中	△
金型技術の進化= 職人技の発掘と伝承×自動化	経験知を可視化する仕組み作り 職人技のデジタル化(映像化・画像化)	図、写真、動画をい用いメカニズム、ノウハウ、作業手順、教育資料を社内サイトへ積上中	△
スマートファクトリーによる 経営資源の最適化	ものづくりの見える化 IoTと自動搬送等の再整備	新ERP導入などにより、業務処理は省力化出来たが見える化の実現には至らず	△

## 『1st STEPで実施した成長投資を確実に刈り取る』

2nd STEPの重点課題

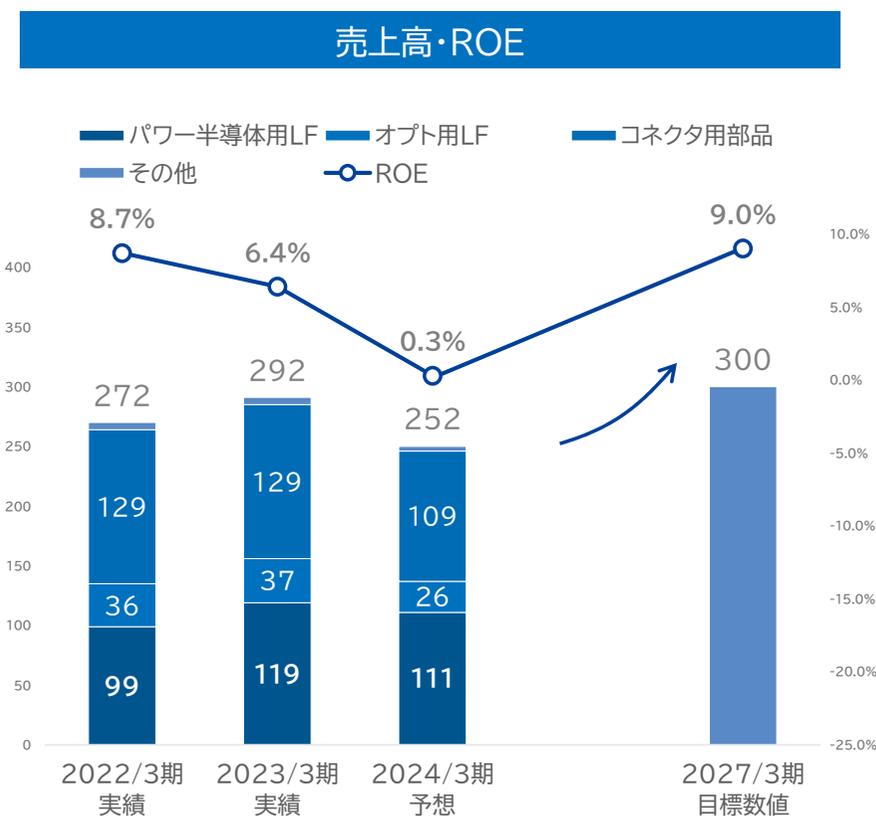
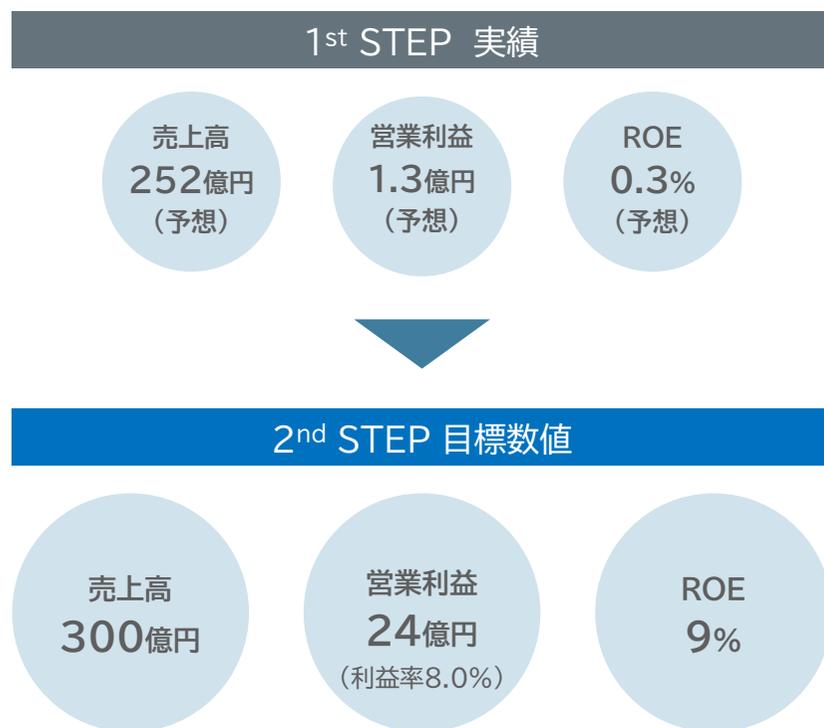
津軽工場のキャパアップ効果

メッキ内製化による利益率改善

見える化、スマートファクトリーの推進

## 2nd STEP(2025年3月期～2027年3月期)

- 自動車向けパワー半導体用リードフレームやハイエンドLED等の成長分野への投資により、2nd STEP最終年度は売上高300億円を計画
- 増収に加えて、メッキ工程の内製化やスマートファクトリーの推進による生産効率向上により営業利益は24億円、利益率も8.0%を計画

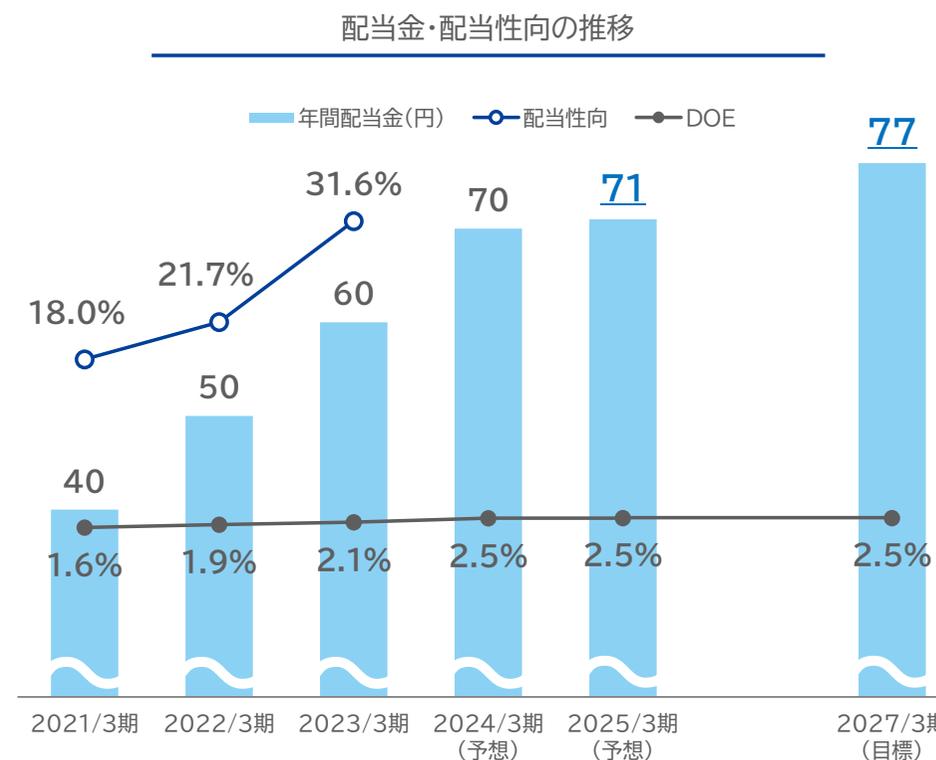


- 2023年5月に配当方針をDOEをベースに変更、2024年3月期は期初予想通り70円配当を予定、同様の方針により25/3期も71円への増配を計画

## 2024年3月期以降の配当方針

- DOE\*2.5%以上を配当の数値基準とする
- 次期中期経営計画「2nd STEP」でも、最適な自己資本水準や短期的な利益増加の反映方法を総合的に勘案しつつ、増配トレンドを継続する
- 2024年3月期は70円配当を予定（DOE2.5%）  
2025年3月期も同様の方針で71円の配当予想

\* DOE(自己資本配当率) = 年間配当額 / 株主資本



## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。